

永遠に地獄の火で苦しむという靈魂不滅の考えは、新しい天と新しい地には「もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない」(黙21:4)という聖書の教えと相反しています。もし永遠に燃える地獄の教えが真実なら、「第二の死」は宇宙から罪と罪人を滅ぼさず、悲しみと嘆きの永遠の地獄に閉じ込めるだけです。そうであれば、宇宙は二度と創造当初の完全な姿に回復されることもありません。しかし、主を賛美すべきは、聖書がそれとはまったく異なる光景を描いていることです!

問4 イザヤ 25:8、黙示録 7:17、同 21:4 を読んでください。この世の試練と苦しみの中であって、これらの聖句は、私たちにどんな希望と慰めを与えてくれますか。

人生は厳しく、不公平で、時に残酷です。私たちの愛する人たちが、冷たい死に捕らえられ残酷にも取り去られます。ある人たちは、私たちの人生に巧妙に入り込み、親切を奪い、何事もなかったかのように立ち去ります。愛する人、信頼している人に裏切られることほどつらいことはありません。

心傷つき、人生は生きるに値するののかと思う瞬間さえあります。しかし、神は、悲しみの深さによらず、私たちの頬からできるだけ多くの涙をぬぐい去りたいといつでも熱望しておられます。しかし、死も悲しみも、嘆きもなくなるその輝かしい日の来るときまでは(黙21:1~5)、私たちの悲しみの涙は流れ続けるでしょう。

私たちは、最後の裁きにおいて、神は公正と愛をもって人類1人ひとりに報いてくださると信じることができます。キリストにあって死んだ私たちの愛する者すべては、永遠に私たちと共にいるために死からよみがえります。永遠の命にふさわしくない者たちは、〔彼らにとっては〕「喜びのない」天で生きることも、燃え尽きることもない火の地獄で生き続けることもなしに、遂にその存在が無くなります。公正な神からもたらされる何物にもまさる慰めが、私たち1人ひとりを待っています。死が確実にその存在を終えるとき、贖われた者たちは喜びの叫びを上げます。「死は勝利にのみ込まれた。死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか」(1コリ15:54、55)。

主は、新しい天と新しい地において、「初めからのことを思い起こす者はない。それはだれの心にも上ることはない」(イザ65:17)と約束されました。